



市制施行 75 周年・開館 25 周年記念

## 特別展「ガンダーラ —仏教文化の姿と形—」について

### 1. 概 要

仏教美術のふるさとガンダーラ。本特別展は、まず前半で当館所蔵のガンダーラ仏教美術品やガラス製品をはじめとするシルクロードの交易品とともに、日本各地の博物館・美術館等が所蔵する関連資料をお借りして、紀元 1 世紀から 5 世紀におよぶ、遙かなる仏教文化の世界をよみがえらせます。

シルクロードの交流を背景として中国にもたらされた仏教は、さらに東方に位置する朝鮮半島や日本列島にも伝わりますが、その頃の日本では仏教をどのように受け容れたのでしょうか。展示の後半では、6 世紀から 7 世紀にかけて日本で華開く仏教文化の始まりを、各地で発掘された資料から探ってみます。 ※展示資料数約 200 点

### 2. 期 間

平成 30 年 9 月 22 日(土)～11 月 25 日(日) 開催日数 56 日

休館日：毎週月曜日

※ただし 9 月 24 日(月・祝)、10 月 8 日(月・祝)は祝日のため開館し、各翌日の 9 月 25 日(火)、10 月 9 日(火)は休館日とする。

※11 月 3 日(土・祝)は観覧無料日。

### 3. 会 場

松戸市立博物館 企画展示室

### 4. 展示の構成

#### 第 I 部 ガンダーラの仏教文化

##### (1) 仏像のふるさと“ガンダーラ”

パキスタンの北西部、ペシャワール盆地を中心とする地域は、かつてガンダーラと呼ばれました。日本の仏教美術の源となった当地の仏教彫刻の数々を紹介しつつ、釈迦の生涯にも注目します。また青銅製の仏教関連資料も展示します。

##### (2) ガンダーラ仏教寺院跡探訪

6 世紀頃に衰退したガンダーラ仏教を知る手掛かりは、寺院跡の発掘調査によってもたらされました。今回展示している「美術品」が、本来はどのように寺院を飾り、また礼拝されていたのかを、実際の資料と発掘時の写真から探っていきます。

##### (3) シルクロードの中のガンダーラ

西はローマから東は洛陽におよぶ長大なシルクロードは、ガンダーラで華開いた仏



教文化を日本へ伝える上で大きな役割を果たしました。当館所蔵のガンダーラの名品に加えて、広くシルクロード美術とも呼べる資料を展示することで、長い旅路に思いを馳せます。

## 第Ⅱ部 日本における仏教文化の受容

### (1) 仏教文化の受容

仏教は6世紀中頃、アジア東端の日本列島にも伝来します。日本初の本格的な寺院飛鳥寺(奈良県明日香村)からは、舍利とそれを納めた塔を崇拝するという仏教本来の信仰が見て取れます。

### (2) 花開く仏教文化

7世紀後半の「白鳳寺院」は、堂内の壁面を多数の<sup>せんぶつ</sup> 塼仏で華麗に飾り立て、さらに多彩な塑像群を安置していました。現代とは異なる古代寺院の内部を探ります。

### (3) 古墳出土の仏教荘厳

古墳には遺体に伴う副葬品が付きものですが、一旦古墳を作ったのちに<sup>おしだしぶつ</sup> 押出仏や塼仏を再度埋める事例が見つかっています。この追葬行為を手掛かりに、仏教文化の一層の普及と古墳文化の終焉を考えます。

## 5. おもな展示資料

### 第Ⅰ部 ガンダーラの仏教文化

#### (1) 仏像のふるさと“ガンダーラ”

仏陀立像・菩薩立像(龍谷大学龍谷ミュージアム)

<sup>うきぼりぶつでん</sup> 浮彫仏伝「誕生」(東京国立博物館)

<sup>ぼさつはんかぞう</sup> 菩薩半跏像〈アフガニスタン→C〉・<sup>ぶつとう</sup> 仏頭〈アフガニスタン→A〉・

仏頭〈インド・マトゥラー→B〉(松戸市立博物館)

カニシュカⅠ世金貨→E(平山郁夫シルクロード美術館)

<sup>はふがたうきぼり</sup> 破風形浮彫ほか仏伝浮彫→F(松戸市立博物館)

<sup>はしゆつきすいびょう</sup> 把手付水瓶→D(松戸市立博物館)

<sup>たいしゃくくつせつぼう</sup> 帝釈窟説法(平山郁夫シルクロード美術館)、<sup>ぼさつしよそうぞう</sup> 菩薩諸相像(松岡美術館)他

#### (2) ガンダーラ仏教寺院跡探訪

タレリ遺跡・メハサンダ遺跡(京都大学)

カニシュカ王碑文拓本(龍谷大学龍谷ミュージアム)他

#### (3) シルクロードの中のガンダーラ

<sup>きりこ</sup> 切子碗・<sup>ちようもんびん</sup> 鳥文瓶・パテラ杯(松戸市立博物館)

<sup>たさいゆう</sup> 多彩釉画像タイル(東京国立博物館)

二重浮出し<sup>えんもんきりこ</sup> 円文切子装飾碗・浮出し円文切子装飾碗(MIHO MUSEUM)

<sup>はくるりわん</sup> 白瑠璃碗(重文:伝安閑陵古墳、東京国立博物館)

ガラス碗(京都市考古資料館)ほか

### 第Ⅱ部 日本における仏教文化の受容

#### (1) 仏教文化の受容



飛鳥寺 塔心礎埋納品<sup>とうしんそまいのうひん</sup> (複製含む：飛鳥資料館)

法隆寺舍利容器・海獣葡萄鏡<sup>かいじゅうぶどうきょう</sup> (模造) (複製：東京国立博物館)

(2) 花開く仏教文化

川原寺裏山遺跡出土 埴仏<sup>せんぶつ</sup>・塑像<sup>そぞう</sup>ほか **→G** (明日香村教育委員会・関西大学・飛鳥資料館)

山田寺出土埴仏 (重文：飛鳥資料館) **→H** 埴仏・埴仏範 (東京国立博物館)

(3) 古墳出土の仏教荘嚴

鳥居古墳出土押出仏・埴仏(三重県総合博物館)

6. 関連事業

(1) 企画展記念講演会 (3回)

記念講演会① 「仏像のいないガンダーラ美術」

平成30年10月7日(日) 13:00~15:00

講師：小泉恵英氏(九州国立博物館 学芸部長)

記念講演会② 「姿を現した白鳳仏—飛鳥・川原寺裏山遺跡を掘る—」

平成30年11月10日(土) 13:00~15:00

講師：右島和夫氏(群馬県立歴史博物館 館長)

記念講演会③ (日本西アジア考古学会・松戸市立博物館連携講演会)

「ガラスが語るシルクロードの東西交流」

平成30年11月17日(土) 13:00~15:00

講師：小寺智津子氏(国土舘大学 講師)

(2) 館長講演会「ガンダーラの仏教美術 —当館コレクションを中心に—」

平成30年9月30日(日) 講師：望月幹夫(当館館長)

(3) 学芸員による講演会

「ガンダーラの仏教寺院跡をたずねて」

平成30年10月14日(日) 講師：大森隆志(当館学芸員)

「仏教文化の受容—古墳・飛鳥・白鳳—」

平成30年10月28日(日) 講師：小林孝秀(当館学芸員)

(4) 展示解説会

9月23日(日)・10月6日(土)・10月27日(土)・11月4日(日)・  
11月25日(日)

【問い合わせ先】

生涯学習部市立博物館 ☎047-384-8181



## 展示資料



A 仏頭（松戸市立博物館）



B 仏頭（松戸市立博物館）



C 菩薩半跏像（松戸市立博物館）



**D** 把手付水瓶 (松戸市立博物館)



**E** カニシュカ I 世金貨  
(平山郁夫シルクロード美術館)



**F** 浮彫「四天王奉鉢」(松戸市立博物館)



**G** 方形三尊塼仏  
(明日香村教育委員会／奈良文化財研究所)



**H** 塼仏[吉祥天立像]  
(三重県総合博物館)

**A・B** 仏頭が初めて作られた候補地は、マトゥラー（現インド）とガンダーラ（現パキスタン）です。Aは高い鼻とウェーブがかかった髪にギリシャ文化の影響が見られ、Bはマトゥラー独特の赤い砂岩な上、インド的風貌をしています。

**C** 片方の足を曲げて、もう片方の足の膝頭の上で組む半跏座は、菩薩像では一般的な姿勢です。中宮寺菩薩像の源流に当たります。

**D** 生まれたての仏陀へ水を灌ぐ（灌水）際の水瓶を意識して作られたものと考えられています。注ぎ口には象がかたどられています。

**E** 1～2世紀にかけて、ガンダーラを支配したクシャーナ朝のカニシュカ I 世は、仏教を信奉するあまり、金貨にまで仏像を用いました。

**F** 悟りを開いた仏陀へ、人が食物を捧げたくとも、受け取る容器がない。そこに日本人にもなじみ深い四天王があらわれ、それぞれに鉢を捧げたという話を石（片岩）に彫り込んだものです。

**G・H** 型を使って大量生産されたタイル状の仏像を塼仏と言います。金箔や彩色を施した塼仏を建物の内壁に貼り付け、堂を荘厳しました。Gは7世紀後半の川原寺（奈良県明日香村）で用いられた可能性があります。一方Hは、地域の有力者の墓である古墳から出土したもので、仏教と古墳、2つの文化の入れ替わりを象徴する資料かもしれません。

松戸市立博物館特別展  
「ガンダーラ—仏教文化の姿と形—」

# ガンダーラ

仏教文化の姿と形

市制施行75周年・開館25周年記念特別展

平成30年

9|22<sub>土</sub> ▶ 11|25<sub>日</sub>

会場 博物館企画展示室  
開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）  
休館日 毎週月曜日（但し、9月24日・10月8日は開館）  
9月25日（火）・10月9日（火）  
主催 松戸市立博物館  
後援 (公財)松戸市文化振興財団 (公財)松戸市国際交流協会  
協力 弘文堂、日本西アジア考古学会、  
新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社  
観覧料

	個人	団体	特別・常設展 共通
一般	300円	240円	500円
高大生	150円	100円	250円

※小中学生は無料

※団体は20名以上

※11月3日(文化の日)は特別・常設展とも無料

観覧料無料のご案内

市内在住で70歳以上の方/身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護人



松戸市立博物館  
MATSUO MUSEUM

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671 ☎047-384-8181

仏教美術のふるさとガンダーラ——。

本展示では当館所蔵のガンダーラ仏教美術品をはじめ、各地の博物館・美術館等が所蔵する優品の数々、そして現地の寺院跡の発掘成果を一堂に集め、遙かなる仏教文化の世界をよみがえらせます。同時にシルクロードを介してアジア東端の列島に伝わる過程で、徐々に変容していった仏教文化についても、国内出土の資料をもとに探っていきます。

※撮影：小川忠博



方形三尊博仏 奈良県川原寺裏山遺跡出土  
明日香村教育委員会蔵 / 奈良文化財研究所飛鳥資料館保管  
奈良文化財研究所写真提供



博仏（吉祥天像）  
三重県鳥居古墳出土  
三重県総合博物館蔵・写真提供  
（三重県指定有形文化財）



カニシユカ1世金貨（裏面：仏陀立像）  
ガンダーラ  
平山郁夫シルクロード美術館蔵



仏頭 アフガニスタン  
松戸市教育委員会蔵



仏頭 インド  
松戸市教育委員会蔵



白瑠璃碗  
伝・大阪府安閑天皇陵出土  
東京国立博物館蔵（重要文化財）  
Image:TNM Image Archives



浮彫「誕生」（部分）  
パキスタン  
東京国立博物館蔵  
Image:TNM Image Archives



把手付水瓶（部分）  
パキスタン  
松戸市教育委員会蔵

講演会（無料）③・④当館友の会共催

- ①「ガンダーラの仏教美術  
—当館コレクションを中心に—」  
日時：平成30年9月30日（日）13:00~15:00  
講師：望月幹夫（当館館長）  
会場：博物館講堂（定員80名）抽選
- ②「仏像のいないガンダーラ美術」  
日時：平成30年10月7日（日）13:00~15:00  
講師：小泉恵英氏（九州国立博物館 学芸部長）  
会場：森のホール21（定員150名）抽選
- ③「ガンダーラの仏教寺院跡をたずねて」  
日時：平成30年10月14日（日）13:00~15:00  
講師：大森隆志（当館学芸員）  
会場：博物館講堂（定員80名）当日先着順
- ④「仏教文化の受容—古墳・飛鳥・白鳳—」  
日時：平成30年10月28日（日）13:00~15:00  
講師：小林孝秀（当館学芸員）  
会場：博物館講堂（定員80名）当日先着順
- ⑤「姿を現した白鳳仏  
—飛鳥・川原寺裏山遺跡を掘る—」  
日時：平成30年11月10日（土）13:00~15:00  
講師：右島和夫氏（群馬県立歴史博物館 館長）  
会場：森のホール21（定員150名）抽選
- ⑥「日本西アジア考古学会・松戸市立博物館連携講演会」  
「ガラスが語るシルクロードの東西交流」  
日時：平成30年11月17日（土）13:00~15:00  
講師：小寺智津子氏（国士舘大学 講師）  
会場：博物館講堂（定員80名）抽選

申込方法

- ①・②・⑤・⑥：講演会ごとに、往復はがき（1人1枚）に住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記して、①は、「9/30講演会」係へ。9月13日（木）必着。
- ②は、「10/7講演会」係へ。9月19日（水）必着。
- ⑤は、「11/10講演会」係へ。10月23日（火）必着。
- ⑥は、「11/17講演会」係へ。10月30日（火）必着。

学芸員による展示解説会

- 9月23日（日）・10月6日（土）・10月27日（土）  
11月4日（日）・11月25日（日）  
時間：14時30分～（所要時間約50分）  
会場：企画展示室（参加者は特別展観覧券が必要）  
申込：不要（直接会場へお越し下さい）



交通案内

- ◆新京成線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」下車。徒歩15分。  
または、松戸新京成バス小金原団地循環・新松戸駅行「公園中央口」下車すぐ。
- ◆JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、松戸新京成バス八柱駅行「公園中央口」下車すぐ。

お車で越しの方へ

来館者専用の駐車場はございません。21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用下さい。なお、当館では障害者専用の駐車場をご用意しております。詳しくはお問い合わせください。